

JR東海労なごや

2011年12月15日 No885
JR 東海労名古屋地方本部
発行者：山田哲也
編集者：教宣部

これで、復帰支援とは・・・信じられません

10月5日、病気休職を経て、名古屋駅に職場復帰し、JR東海労に加入した組合員は、その後金山駅に転勤になりました。そして今は、会社が示した「復帰支援計画書」に基づき知識並びに技術を身につけようと一生懸命努力しています。

このように組合員は、職場復帰後2ヶ月以上にわたり名古屋駅と金山駅で営業制度、出札業務、改札業務、フロントサービスなどの教育と見習いを続けてきたのです。

こうした中で会社は12月13日、「見極め試験」と称して、筆記試験と改札実技試験（ロールプレイング）を行いました。筆記試験は90点以上を合格とする非常に厳しいものです。組合員は、日勤勤務の中で努力を続けてきましたが、残念ながら合格点に届きませんでした。この組合員に対して、金山駅・堀駅長は暴言とも取れるような内容の話をしました。

堀 駅 長 !! !!

ちょっと言い過ぎではありませんか？

試験の後に行われた面談で駅長は、

「努力が足りない。勉強不足だ」

「業務に対する姿勢、意欲が見られない」

「日勤で時間がないならば、1時間早く出勤して勉強しなさい」

・・・など、堀駅長は復職後、懸命に努力している組合員に対して、

この様なことを話したそうです。

皆さん、これでは復帰支援にならない面談だと思いませんか？